

主要木材の入荷量等の概要

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品		構造用集成材
	製材用	合板用		合板	合板	
27年計(実績)	11,835 (97)	3,358 (105)	3,359 (82)	6,132 (95)	5,656 (90)	2,030 (95)
28年第1四半期実績	3,168 (106)	912 (111)	992 (120)	1,598 (110)	1,459 (98)	499 (107)
28年第2四半期実績	3,152 (107)	971 (115)	917 (105)	1,643 (103)	1,450 (105)	555 (109)
28年第3四半期実績	2,917 (106)	891 (114)	789 (104)	1,639 (107)	1,452 (108)	572 (105)
28年第4四半期実績	3,141 (100)	940 (103)	881 (98)	1,580 (102)	1,474 (102)	565 (111)
28年計(実績)	12,378 (105)	3,714 (111)	3,579 (107)	6,460 (105)	5,835 (103)	2,191 (108)
29年第1四半期実績	3,113 (98)	893 (98)	833 (84)	1,599 (100)	1,541 (106)	594 (119)
29年第2四半期実績	3,125 (99)	1,006 (104)	851 (93)	1,695 (103)	1,505 (104)	606 (109)
29年第3四半期見込み	2,800 (96)	1,000 (112)	835 (106)	1,605 (98)	1,467 (101)	605 (106)
29年第4四半期見通し	3,000 (96)	990 (105)	829 (94)	1,580 (100)	1,501 (102)	575 (102)
29年計(見通し)	12,038 (97)	3,889 (105)	3,348 (94)	6,479 (100)	6,014 (103)	2,380 (109)
30年第1四半期見通し	3,000 (96)	970 (109)	850 (102)	1,570 (98)	1,474 (96)	560 (94)

(単位: 千m³, %) (括弧内は前年比又は前年同期比)

1. 住宅着工見通し
29年4～6月期住宅着工は25・0万户、前年同期比+1・1%と29年に入り勢い鈍化、これまで牽引してきた貸家の鈍化顕著。住宅着工予測は、前年度実績を若干下回る96・9万户程度の見方主流。

2. 国産材丸太(製材用)
29年第2四半期実績は前年同期比微減、第3四半期は豪雨の影響等で国産材製材品に品薄感見られるが、供給見通し難しく、前回より減少見込、第

給会議
林野庁は、平成29年9月27日(水曜日)に平成29年度第2回木材需給会議を開催し、「主要木材の需給見通し(平成29年第4四半期及び平成30年第1四半期)」を策定・公表した。

I 見通しの要点
(1) 平成29年第4四半期(10～12月)の需給は、国産材合板用丸太、合板及び構造用集成材は、前年同期比増加、輸入製材品は前年同期同程度、国産材製材用丸

太及び輸入丸太は、前年同期比べ減少見通し。
(2) 平成30年第1四半期(1～3月)の需給は、国産材合板用丸太及び輸入丸太は、前年同期比増加、国産材製材用丸太、輸入製材品、合板及び構造用集成材は、前年同期比減少見通し。
(3) 平成29年度の新設住宅着工戸数は、貸家着工の減少を反映し、前年度比減少見込み。

II 意見の概要(抄)
1. 住宅着工見通し
29年4～6月期住宅着工は25・0万户、前年同期比+1・1%と29年に入り勢い鈍化、これまで牽引してきた貸家の鈍化顕著。住宅着工予測は、前年度実績を若干下回る96・9万户程度の見方主流。

平成29年度第2回木材需給会議

太及び輸入丸太は、前年同期比べ減少見通し。
(2) 平成30年第1四半期(1～3月)の需給は、国産材合板用丸太及び輸入丸太は、前年同期比増加、国産材製材用丸太、輸入製材品、合板及び構造用集成材は、前年同期比減少見通し。



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 信也
東京都文京区後楽ビル6階
〒112-0004 林友ビル
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

4. 米材丸太需要 29年第2四半期実績は前年同期比減、産地供給不足が主因、国内需要引き続き旺盛、産地価格上昇基調に転じ、国内製材の採算厳しく、第3四半期は前年同期比並み需要、産地西海岸ではファイヤー・クロージャーによる伐採規制深刻、需要に見合う供給なく、産地・国内価格は需給逼迫から値上げ始まり、大手平角メーカーで2000円/mの値上げ、国内原木在庫減少、第4四半期は前年同期程度、住宅着工・プレカット需要は年内堅調推移見込まれるが、産地原木供給量が早期に回復せず、当面、

4. 米材丸太需要 29年第2四半期実績は前年同期比減、産地供給不足が主因、国内需要引き続き旺盛、産地価格上昇基調に転じ、国内製材の採算厳しく、第3四半期は前年同期比並み需要、産地西海岸ではファイヤー・クロージャーによる伐採規制深刻、需要に見合う供給なく、産地・国内価格は需給逼迫から値上げ始まり、大手平角メーカーで2000円/mの値上げ、国内原木在庫減少、第4四半期は前年同期程度、住宅着工・プレカット需要は年内堅調推移見込まれるが、産地原木供給量が早期に回復せず、当面、

4 四半期及び30年第1四半期は豪雨災害等の復旧、遅れ見られる建築現場の状況、国産材供給等の見通し難しい状況、前年同期比減見通し。需要は、降雨の影響、建築現場の工程遅れ見られ、8月稼働日少なく、降雨により荷動き落ち着いていたとの見方。プレカット受注残は、事業者ごとに差、差は拡大。外材は、米材に続き欧州材も入手が難しい品目が出、良材入手が困難との情報。価格は、強含み、国産材を含め供給、価格を注意深く見守る必要。

3. 国産材丸太(合板用) 29年第2四半期実績は住宅着工回復、国産材合板へのシフト、輸入合板減少、フロア合板等への国産合板の需要増、違法伐採等の環境問題、国内工場の最大限稼働、生産能力のアップ等により、前年同期比増、第3四半期は前年同期比増、第4四半期は国産材型枠用合板の需要拡大、新規合板工場の稼働準備も加わり、前年同期比増、30年第1四半期は前年同期比増の見通し。

6. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給
(1) 米材丸太供給 29年第2四半期実績は前年同期比減、第3四半期は、伐採規制もあり、あまり伸びず、前年同期並み、第4四半期は伐採規制による出材遅れ、需要大きく変わらず、第2、第3四半期と同程度、30年第1四半期は天候問題なければ前期より増予想。
(2) 米材製材品供給 29年第2四半期実績は順調な需要と北米市況の煽り受け、供給タイト感で入荷は前年同期比増、2×4が順調な伸び、第3四半期はカナダ山火事の影響で供給がタイト、前年同

需給ギャップから原木・製品とも値上浸透、港頭在庫更に減り込む、国産材価格の値上げも通りだす、30年第1四半期は産地原木供給量回復し、国内はほぼ需給は見合う状態に戻るも、前年同期比減、国内原木在庫は少ない状態で推移、暫くは高値で横這う展開予想。

5. 米材製材品需要 29年第2四半期実績は入荷順調、出荷も増加し予想を上回り、プレカット工場も順調に生産、しばらくこのペース続く、第3四半期は現地の日本向けを増やす意欲薄く、日本サイドの買い付け意欲強いと言えず、前年同期比若干増、第4四半期は北米ファイヤー・クロージャー続き、丸太不足慢性化、原木価格上昇傾向、ますます日本向け出荷が困難な状況、前年同期比減、30年第1四半期は現地製材工場が丸太不足と原木価格上昇を理由に、輸出価格の値上げに動き、年末までの入荷かなり減る、現地原木不足年末までには解消、3月頃には入荷も回復、前期比減の見通し。

需給ギャップから原木・製品とも値上浸透、港頭在庫更に減り込む、国産材価格の値上げも通りだす、30年第1四半期は産地原木供給量回復し、国内はほぼ需給は見合う状態に戻るも、前年同期比減、国内原木在庫は少ない状態で推移、暫くは高値で横這う展開予想。

5. 米材製材品需要 29年第2四半期実績は入荷順調、出荷も増加し予想を上回り、プレカット工場も順調に生産、しばらくこのペース続く、第3四半期は現地の日本向けを増やす意欲薄く、日本サイドの買い付け意欲強いと言えず、前年同期比若干増、第4四半期は北米ファイヤー・クロージャー続き、丸太不足慢性化、原木価格上昇傾向、ますます日本向け出荷が困難な状況、前年同期比減、30年第1四半期は現地製材工場が丸太不足と原木価格上昇を理由に、輸出価格の値上げに動き、年末までの入荷かなり減る、現地原木不足年末までには解消、3月頃には入荷も回復、前期比減の見通し。

期比若干の減、第4四半期は年末に向け住宅着工の伸び予測され、入荷増、前年同期比並み、30年第1四半期は住宅着工需要ピーク過ぎ、クリスマス休暇の影響で、前年同期比並予測。

(3) 欧州材製材品供給 29年第2四半期実績は前年同期比並み、羽柄材減も、ラミナ増、第3四半期は前年同期比微減、コンテナ不足の反動で9月入荷は例年より減らず、第4四半期は入荷減、RWラミナの買付旺盛、オーストリアの入荷減少継続、ブルーステイン、羽柄材等完成品買いは絞るが、ラミナ順調で前年同期比増、30年第1四半期は年末年始、内地在庫高水準続き、羽柄材入荷押さえ気味、前年同期比減見通し。RWラミナは順調に入荷見込み。

(4) 北洋材丸太供給 29年第2四半期実績は合板メーカー向け入荷で予想より増、第3四半期は前年同期比増、第4四半期は、端境期、前年同期比減、30年第1四半期は安定供給の評価を考慮し、入荷引き続き限定的、前年同期並みと予想。

(5) 北洋材製材品供給 29年第2四半期実績は前年同期比同程度、入荷順調も、1~7月では、昨年比-4.3%。第3四半期は産地生産環境順調も、港頭在庫多く、前年同期比減、第4四半期は港頭在庫多く、端境期迎え買い控、前年同期比減、30年第1四半期は対日価格悪くなく、例年同様の入荷、前年同期比増の見通し。

(6) 輸入構造用集成材供給 29年第2四半期実績はRW梁に不足感、引合い旺盛で前年同期比増、第3四半期は引続きRW梁中心に引き合強く入荷数量順調

も、供給キャパ限られ前年同期比減、第4四半期は夏休で入荷量限られ、前年同期比並、30年第1四半期は年末年始及び需要も若干落ち着き前年同期比減の見通し。

7. 南洋材製材品の需要 29年第2四半期実績は毎月40千m程度の出荷、第3四半期は住宅着工好調推移、前年同期並み、第4四半期は夏場公共事業物件、秋需見越した動きもあり、前年同期並み、30年第1四半期は住宅着工、店舗開発等大きな増減ないと予想。

8. 国産、輸入合板の需要
(1) 国内製造合板需要 29年第2四半期実績は前年同期比増、大手のハウスメーカー・プレカット工場は仕事量底堅く、中小工務店・ビルダー向け受注残は流通店倉庫への納入進む、第1・2四半期は複合フローリング基材の国産材利用及び合板輸出大きく伸び、第3四半期は前年同期比増、大手のハウスメーカー・プレカット工場は、稼働好調、仕入量増、中小工務店・ビルダー向けは、東日本地区も引き合い増加し始め、フローリング用針葉樹合板需要は、増加傾向、通常品は極端な納期遅延に至らないが、特寸や実加工品は納期要す、全国的に品薄続き、一層深まる、第4四半期は前年同期程度、針葉樹構造用合板は、大手のハウスメーカー・プレカット工場は仕入量高水準、中小工務店・ビルダーは、メーカー販売姿勢を睨み手当、ほぼ前年水準の住宅着工により需要維持、在庫低水準、30年第1四半期は前年同期程度の見通し。針葉樹構造用合板需要は、全体では前年同期水準の見込み。複合フローリング台板や

コンクリート型枠合板の供給に向け生産体制づくり課題、需要環境見ながら供給力を増す。
(2) 輸入合板需要 29年第2四半期実績はフローリング台板基材の輸入合板利用は第1・2四半期生産量で前年比10%強減、第1四半期大量入荷も、全体として旺盛な需要、前年同期比増、第3四半期はサラワク州のTimber Premium(以下「TP」という)の税率引上げを契機に先高感、マレーシア・インドネシアの出材不足、現地契約残の生産回復状況を見ながらの手当、出荷も供給量に制約され前年同期比減、当面輸入元提示価格水準に市場も従う、第4四半期のコンクリート型枠は大型物件建設増による需要増、根強い需要に支えられ前年同期程度、供給は、丸太不足改善や契約残納入によりほぼ前年水準、フローリング用台板の輸入合板利用は全体で減少も、床暖用床材で南洋材台板の根強い需要、30年第1四半期は薄・中厚・台板等で輸入合板から他への転換は進むも、前期並みの見通し。

■「森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2017」
「日本の森林を守る協議会」設立

平成29年10月27日、森林・林業・木材産業6団体(日本林業協会、全木連、全森連、日本林業経営者協会、全素協及び全市連)は、「国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」を設立するとともに、「森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2017」を宣言・公表した。
今後、森林・林業・木材産業関係者

は、森林・林業の再生への動きをさらに加速化していくため、引続き森林環境税の創設や都市の木質化へ向けた抜本的対策の創設などに取組むとともに森林・山村の現状を憂い、日本の森林・林業の再生に協力を惜しまない企業、消費者、NPO等と力を合わせ国産材の安定供給・需要拡大を実現していくため「国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会」を立ち上げ、これまで以上の決意をもって取り組んでいく。国民各層との連携を図りながら、日本の森林・林業そして山村の再生を実現するため、次の事項に共同して取り組むことを宣言する。」という趣旨。

具体的内容は、以下のとおり。
1. 日本の森林が直面する経営放棄地や境界不明森林などの基本的命題に対応するため、森林環境税の創設を求めるとし、森林・林業界を挙げた行動を一層進めるとともに、関係団体においても施業の集約化、効率化等日本の林業の競争力を高めるための取組をより一層強化する。

2. 国産材需要の大宗を占める住宅建築が将来的に減少すると見込まれる中、国産材の安定的な需要を確保していくため、非住宅分野での国産材利用拡大への取組を強化することとし、進み始めている新たな技術の活用による需要の掘り起こしや民間建築物への木材利用拡大のための法制度の創設等に向けた取組を強化する。
3. 「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用のサイクルを可能とするため、「国産材を優先的に利用して

日本の森林を守る活動」に賛同する企業、消費者、NPO等との連携・協力の下、国産材の活用に対する情報発信に取組むなど、国産材の安定供給・需要拡大に向けた具体的な行動を展開する。平成29年10月27日6団体会長。

■第37回木と暮らしのふれあい展

東京都と(社)東京都木材団体連合会(吉条良明会長)は10月7日(土)～8日(日)、都内江東区の木場公園イペント広場で「木と暮らしのふれあい展」を開催した。前日からの雨模様も回復し、会場には2日間で約7万人(主催者発表)が訪れ、出店団体による展示即売や木工教室を楽しむ参加者で、おおいにぎわった。

7日の式典は、廣木俊一実行委員長(新東京木材商業協同組合代表理事)による開会宣言のあと、主催者の東京都産業労働局の藤田裕司局長が挨拶し、続いて挨拶に立った吉条都木連会長は、「住宅着工の増、木材自給率34・8%となったこと、異常高温・集中豪雨等の要因としての地球温暖化、抑制対策として森林の役割が益々大きくなっていること、木材需要を促進することが必要不可欠であること、オリパラで訪れる外国の方々にと木が触れあい溶け込んでいる日本の伝統文化、建築技術に接する機会を、来年秋の東京開催の全国植樹祭、このイベントを通じ木の良さを感じ、木材への理解を深めていただきたい」等に言及して挨拶した。開会式では、アルプホルンも演奏され、豊かな音色が参加者の耳を楽しませた。

【イベント会場】

イベント会場では、約20の参加団体によるテントが張られ、森林の役割や木材利用の大切さを理解していただくためのクイズや寸劇、木工品の即売などが行われたほか、マイ箸づくりや縁台づくりを体験する木工教室及びブルーベリー、オリブの苗木配布などが行われ、順番待ちする親子連れでにぎわった。また木製花器、木の椅子、スノコ、杉盆などのチャリティオークション、木挽きの実演なども行われた。ステージでは、木場の木遣り、太鼓演奏や詩吟が披露されて、多くの人でにぎわった。



(開会式の様子)

■第45回JAS製材品展示会(丸宇木材市売(株)北浜市場)

第45回JAS展は、すでに3会場において実施済みであり、その概要は既報のとおりである。10月には、12日(木)に丸宇木材市売(株)北浜市場(押本雅壽社長、埼玉県)で開催された。

11日(水)の審査会には、7社から41㎡の製品が出品され、服部順昭審査委員長ほか審査員が厳正に審査した結果、100点が3社と極めて優秀な成績となった。

翌日12日の展示即売会には、主催者を代表して、全木連の坂東理事が出席し、JAS制度の意義や普及への協力要請を行った。また、開催市場の押本社長が挨拶し、JAS製品の普及とお買い上げを要請した。式典の後、JAS製材品等の



(JAS展競りの様子)

競りが行われ、活況を呈した。

■第62回全国優良木材展示会(東京木材市場(株))

東北木材(株)に都知事賞

東京都木材団体連合会(吉条良明会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月5日(木)に、東京木材市場株式会社(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。10月4日(水)に行われた審査会においては、14社269㎡の製材品について、「寸法、技術、表示・結束、乾燥、出荷実績」などの項目ごとに、減点方式で審査した。審査結果は、以下のとおり。

- ① 都知事賞：東北木材(株)
- ② 産業労働局長賞：(株)沓澤製材所、協和木材(株)、厚沢部林産工業(株)、(有)東部産業、上大木材産業(株)



(知事賞授与)

③都木連会長賞・久万広域森林組合(株) 松栄商事、沼崎製材所、(有)東山興業、(有)関野材木店。

式典では、ご来賓挨拶の後、市川東京木材市場(株)社長から「展示会開催にご尽力いただいた関係者への感謝、秋需の真只中、今こそ国産材需要拡大の好機であり、品質・規格の担保された優良国産材の一層の買い上げを」等の謝辞・挨拶があり、続いて、活発なセリが行われたが、アフリカンマホガニー等珍しい出品材も話題となった。

■第57回千葉優良木材展示会(千葉県木材市場(協))

千葉県森連、千葉県木材振興協会、千葉県木材市場(協)及び「ちばの木認証センター」は、10月19日(木)に、千葉県木材市場(協)(吉岡實代表理事)において千葉優良木材展示会を開催した。

前日10月16日に審査会が行われ、素材の部50点、製材品の部30点及び間伐材の部5点の中から、各賞が選ばれ、19日に表彰式が行われた。最優秀賞林野庁長官賞には、素材の部(有)勝又木材・スギ(76cm×5m)及び製材品の部(有)勝又木材・スギ(13・5cm×13・5cm×4・0m)が選ばれた。表彰式後のセリは、秋雨の中、多くの買方様が集まり、活況を呈した商いとなったが、長官賞のスギ素材は、m22万円で落札された。

■日本商工会議所会頭新木場視察

東京木材市場他
平成29年10月03日(火) 午後三村明



(林場の視察)

夫東京商工会議所会頭(日本商工会議所会頭)一行が、新木場を視察し、木材関係者と意見交換等を行った。当日は、東京商工会議所城東ブロック管内の細田木材工業(株)(江東区)及び(有)ナプラ(葛飾区)も併せて視察した。三村会頭等11名は、東京木材市場を訪れ、市川英治社長(全市連会長)等の説明で林場に並ぶ製材品を興味深げに視察された。また、会社概要及び木材流通の状況等について説明を受け、市川英治社長及び早川金光買方組合理事長(全買連会長)等と木材業界の現状・課題等についても意見交換を行った。三村会頭は、鉄鋼畑の出身だが、「林業復活・地域創生を推進する国民会議」会長でもあることから、突っ込んだ意見交換が行われた。商工会議所会頭が、木材市場を訪れるのは、関係者の記憶にも無いところで、経済界において

も林業・木材産業への関心が高くなっていることの現れかもしれない。

■平成29年度木材アドバイザリー養成講習会(建築士会CPD認定)開催のご案内

木材を取り扱う方々等を対象に環境問題や木材需給、日本の林業のほか、木の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識を学んで頂くため、下記により木材アドバイザリー養成講習会を開催します。この講習会は、(公社)日本建築士会連合会のCPD認定プログラムになっていきます。皆様のご参加をお待ちしております。(東京・大阪の各会場で定員40名程度を予定。)

- 日程等は、
- ①(東京会場) 平成30年2月16日(金) 9:30~17:20、2月17日(土) 9:00~15:40 (於) 木材・合板博物館1F会議室(〒13668405 東京都江東区新木場1丁目7番22号新木場タワー)
 - ②(大阪会場) 平成30年2月23日(金) 9:30~17:20、2月24日(土) 9:00~15:40 (於) 大阪木材仲買会館会議室(〒55000013 大阪府大阪市西区新町3丁目619)
- 受講料は、22,000円(ただし、受講料、テキスト代、受験料等を含みます)
(申し込み・問合先)(一社) 全日本木材市場連盟 東京都文京区後楽1-7-12
TEL 033381812906
FAX 033381812907
E-mail zennichi22@gmail.com

雑記帳

■ステーキとヒトと地産地消
先日、テレビで、日本の有名なシェフが巡る「世界の美味しいステーキの旅」の番組を放送していた。アメリカ、フランス及びイタリアであったか、それぞれの国の牛肉でつくられる、ご当地の人気店のステーキはともおいしうだった。番組のまとめとして、それぞれのシェフが語る作り方のポイントは、その牛が育った地域の素材を最大限使用して調理すると、ステーキは、最も美味しくなることだったと思う。さて、我々ヒトについてこれを当てはめて見ると、その生活圏の食材を食べ、地域の材料で作った衣服・建物等の中で生活すると、もっとも美味しくなる。というわけには、倫理上いかない。やはり、ここは、地産地消の生活がヒトの健康・長寿にとっても良いということになるか。ただし、地産地消が良いと言っても、行政上の都合もあるが、近年のあまりに狭い、行政的区分にこだわり過ぎるのは、いかがなものか。こだわりのあまり、地元材をはるか遠方に運んで、加工して地域に戻して建築するというのは、エネルギー使用等の面で「環境に優しい資材である木材」の名が泣くのではないか。県産材ではなく圏産材と言われた著名な教授がおられたが、地域銘柄材以外の一般材であれば、例えば九州材、中国材、東北材といった圏域の大きな括りで良いのではないか。圏産材利用促進の動きを、応援したい。更には言えば国産材(無垢のJAS製材品がより好ましい)の利用促進でよろしいのではないか。